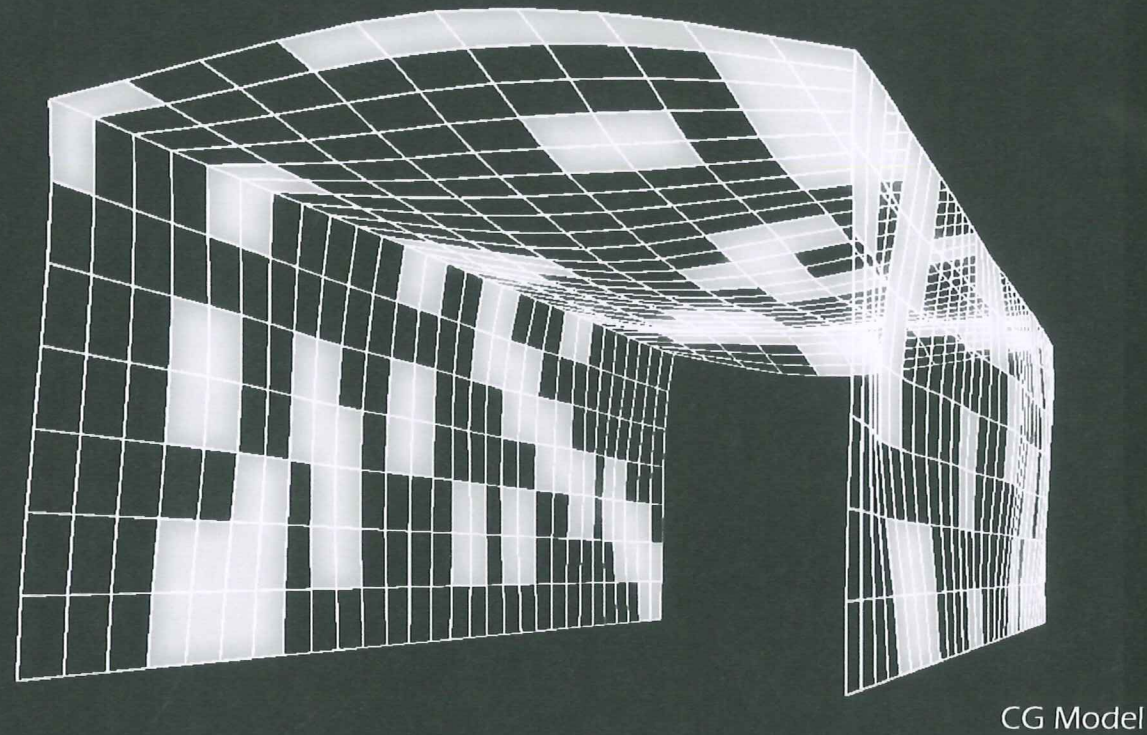


# Windy Passage 1

地上を歩いていると見えないカタチを感じることもある。見えないカタチ…それは風。揺れる街路樹や波打つ水面など、風を受けて、風を可視化している。本手法は、見えないカタチをどのように可視化すればよいかということに着目し、カタチを創り出すことを試みた。



## ダイアグラム

24×30のグリッドを折り曲げ、トンネル状のフレームを作る。これに、ランダムにパネルを配置し、これを初期形態とする。次にフレーム全体に自重を、パネルに風荷重を加え、変形させる。次に変形量が多い部材の周りにパネルを追加し、同様に荷重を加える。この「パネル」→「変形」という操作を繰り返し、変形による形態抵抗により全体の変形量が小さくなったら終了とする。このアルゴリズムにより、パネルおよびフレームで、風荷重による形および変形箇所の可視化を目指した。

風荷重については、建築基準法令に従い、地表面粗度区分Ⅰ、基準風速 30m/s の敷地を想定し、屋根部は独立上屋とした。また、風向出現頻度の確率分布に従い、長手方向、短手方向に異なる風荷重を加えている。



Short Elevational perspective



Long Elevational perspective

## Diagram

